

第64回日本学生科学賞 最終審査進出研究作品概要

HB061CE	高校	生物	大分県
学校名		大分県立大分舞鶴高等学校	
研究作品タイトル		餌付けニホンザル群における低カロリー餌の効果	
研究者氏名 (共同の場合はグループ)		柴崎 壮平、神田 大雅、岸 航大、鈴木 隆太、長 健士郎、野田 遥希	
指導教諭氏名		渡邊 ひろ美	

【動機】

高崎山自然動物園では、これまで餌付け餌として生のコムギを与えてきたが、今年8月から個体数減少を目的として細かく切ったサツマイモをコムギにブレンドした餌(低カロリー餌)を撒き始めた。本研究では、このブレンド餌のニホンザルの個体数増加を抑制する効果について検討した。

【方法】

高崎山B群とC群の上位と下位の各個体の採餌量と採餌時間をフォーカルサンプリング法を用いて調査した。採餌量の調査では、サルが地面に落ちている餌を指で口に運ぶ動作1回で1粒採餌したとして、1回の餌撒き時に採取したコムギまたはイモの個数を計測した。また、サルの餌嗜好性実験を行った。

【結果】

サルは形状の異なるイモの餌を最初は警戒していたが、次第に馴れて細かく切ったイモを好んで食べるようになった。ブレンド餌を与える餌撒きでは、コムギ餌の餌撒きの場合よりも、餌の獲得個数も摂取カロリー量も減少していた。さらに、餌の採餌効率の比較から特に上位個体で摂取エネルギー量を抑えられることが分かった。

【まとめ】

ブレンド餌を撒いたときの各個体の摂取エネルギー量は、上位から下位の全ての個体でコムギ餌の場合よりも低いことが分かった。これまでのコムギの餌付け餌に細かく切ったイモを混ぜることによって、上位雌ザルの摂取エネルギー量を減らすことができ、出産率を低下させることによって個体数増加を抑制する効果があると考えられた。

【展望】

高崎山自然動物園では、餌付けの影響で増えすぎたニホンザルの個体数を適正な数に戻す必要がある。ブレンド餌を与える回数を現在よりも増やし、餌撒き場での餌の撒き方を改善することによって、上位個体と下位個体の餌獲得量の格差を小さくし、上位雌ザルの栄養状態を調整するこ

とで、生息数を管理できるようになると考えられる。